

2015年

消費者大会は、年1回開催され、県民の皆さんの学習・交流の場です。どなたでも参加できます。

岩手県消費者大会

昨年に続き、大阪経済大学客員教授岩本沙弓先生来盛!

参加
無料

10月28日(水) 10:30~15:00 サンビル7階

(※お弁当を用意します(¥500)。個人参加の場合は予約が必要です。団体からの参加は事前に取りまとめます。)

◆午前：分科会 10:30~12:20 6つの分科会から興味があるところへご参加ください。

1 岩手の食を考える	岩手の食財で元気になろう!	4 消費者問題	『消費者被害に合わない』から『消費者が主役の社会をつくる』へ転換していくために
2 貧困と労働問題	経済成長が難しい社会での生きづらさと希望	5 被災地の復興	被災地の現状を知り、防災・減災を考える
3 社会保障問題	このままでは暮らせない ~増えない収入と削減される社会保障、この国のあり方を考えよう!~	6 平和問題	平和な未来を子どもたちに

◆午後：全体会 13:00~15:00

1. 全体会基調講演

「安心して暮らせる社会をめざして~税制・社会保障・雇用問題を考える」

東日本大震災から4年半が経過しましたが、岩手県では未だ1万9千人が仮設住宅暮らしを余儀なくされています。厚生労働省の調査では、被災地のみならず全国の半数以上の世帯が生活を「苦しい」と答えていて、昨年4月の消費税増税の影響を要因としてあげています。

政府は消費税を5%から8%に増税する際、「消費税の増税分は全て社会保障のため」としていましたが、充実どころか私たちの負担は増えています。さらに、社会保障制度の改悪を「骨太の方針」と「新成長戦略」に盛り込み、新たな段階に進めようとしています。今後、社会保障の負担増に加え、消費税が10%へ引き上げられれば、個人消費がさらに落ち込むことは明らかです。

「消費税はむしろ引下げ、廃止にした方が内需は拡大し税収アップに繋がる」とおっしゃる岩本先生に、昨年に続き基調講演第2弾としてお話いただきます。岩本先生の講演を聞いて、みんなで考えあいましょう。

大阪経済大学 経営学部客員教授 **岩本沙弓** 先生

いわもと さゆみ

《岩本沙弓先生のプロフィール》

■青山学院大学大学院国際政治経済学科修士課程終了。1991年より日・米・加・豪の金融機関にてヴァイス・プレジデントとしてトレーディング業務に従事。現在、為替・国際金融関連の執筆・講演活動の他、国内外の金融機関勤務の経験を生かし、参議院特別委員会にて参考人として出席するほか、学術講演会、政党関連の勉強会、新聞社主催の講演会等にて、国際金融市場における日本の立場を中心に解説。

【主な著書】

「バブルの死角」、「アメリカは日本の消費税を許さない」、「あなたの知らない日本経済のカラクリ」ほか多数



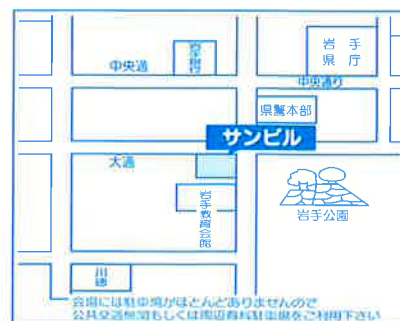
2. 決議提案

保育もあります (200円、5日前までに要申込)

主催 岩手県消費者大会実行委員会 後援 盛岡市

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3 岩手県消費者団体連絡協議会内

参加申し込みは **TEL 019-684-2225**
FAX 019-684-2227



会場には駐車場がほとんどありませんので、公共交通機関もしくは環境にやさしいお車をご利用下さい。

分科会紹介 10:30~12:20 会場：サンビル7階

「暮らしの問題～あなたならどうしますか？」関心のあるところに出て考え合いましょう！

<p>第1分科会</p> <p>◆岩手の食を考える ～企画運営団体～ ・JA岩手県女性組織協議会 ・いわて生協 ・盛岡医療生協</p> <p>会場 7階 6・7号会議室</p>	<p>「岩手の食財で元気になろう！」</p> <p>私たちの命の源である「食」。最近では食品の虚偽表示、加工食品への異物混入など、食をめぐる多くの問題が起きていて、改めて「食」への関心が高まっています。「食」を支えるのは、農家、漁師、畜産農家など生産者のみなさん、そして消費者です。岩手は海の幸、山の幸に恵まれ、「食財」の宝庫。岩手の「食財」の魅力やその可能性を、いっしょに考えてみましょう。</p> <p>◇話題提供 小野寺恵さん (メグミブランニング代表 料理研究家・食品開発プロデューサー)</p> <p>◇意見交流</p>
<p>第2分科会</p> <p>◆貧困と労働問題 ～企画運営団体～ ・女性会議岩手県本部 ・岩手県労働者福祉協議会 ・消費者信用生協</p> <p>会場 7階 3号会議室</p>	<p>「経済成長が難しい社会での生きづらさと希望」</p> <p>生活保護を受ける手前の人たちを、就労を含めた自立にむけて後押しする「生活困窮者自立支援制度」が平成27年4月から実施されています。時代の流れを踏まえ、この制度について一緒に学習しましょう。また、若者のかかえる問題について具体的な事例から実態を知り理解を深める機会にしましょう。また私たちに何ができるか考えあひましよう。</p> <p>◇ミニ講演 藤澤俊樹さん (NPOいわて生活者サポートセンター)</p> <p>◇意見交流</p>
<p>第3分科会</p> <p>◆社会保障問題 ～企画運営団体～ ・新日本婦人の会岩手県本部 ・岩手県母親大会連絡会</p> <p>会場 7階 4号会議室</p>	<p>「このままでは暮らせない～増えない収入と削減される社会保障、この国のあり方を考えよう!～」</p> <p>消費税の増税と社会保障の改悪は、私たちの暮らしを直撃しています。日本の貧困率は増加し、特に子どもの貧困は深刻です。若者も高齢者も暮らしていけない現状をどうしたら変えることができるのでしょうか。昨年「お金の心配なく病院にかかりたい」と願う若い親たちの切実な声が、わずかな期間に6万筆を集める署名運動となり、岩手県議を動かし、子どもの医療費補助が拡大しました。声を上げ、行動することで政策を変えられることが明らかとなりました。暮らしの実態を交流し、行動につなげるために一緒に考えましょう。</p> <p>◇助言者 川口義治さん (岩手県生活と健康を守る会連合会)</p> <p>◇意見交流</p>
<p>第4分科会</p> <p>◆消費者問題 ～企画運営団体～ ・岩手県生協連 ・岩手県生活問題研究会</p> <p>会場 7階 5号会議室</p>	<p>「『消費者被害にあわない』から『消費者が主役の社会をつくる』へ転換していくために」</p> <p>これまで消費者問題はイコール消費者被害の問題といわれてきました。しかし、消費者は常にモノやサービスを受け、消費者被害にあわないために気をつける受身的な存在ではないはず。世界では「買い物は投票」という意識で、社会を良くするために消費者が動き始めています。消費者市民社会を作ろうという動きに私たちができることを一緒に考えましょう。また、10月から始まるマイナンバー制度について、その功罪や暮らしの中で注意しなければならない点についても一緒に考えます。</p> <p>◇講演 「消費者が主役となる消費者市民社会へ」石橋乙秀弁護士</p> <p>◇意見交流</p>
<p>第5分科会</p> <p>◆被災地の復興 ～企画運営団体～ ・いわて生協 ・岩手県労済生協</p> <p>会場 7階 ホール後方</p>	<p>「被災地の現状を知り、防災・減災を考える」</p> <p>東日本大震災から4年半が経ちました。災害公営住宅への入居やかさ上げ工事が徐々に進んでいますが、一方で仮設住宅にはまだ2万人が住み、不自由な生活を強いられています。こうした被災地の現状を知り、また今後いつどこで起きてもおかしくない自然災害に対し、どのように防災・減災のとりくみをすすめればいいのか一緒に考えましょう。そして、私たちができる被災地支援を考え、震災を風化させないようにしましょう。</p> <p>◇被災地からの報告 佐藤一男さん (認定NPO法人桜ライン311副代表 米崎小学校仮設住宅自治会長)</p> <p>◇意見交流</p>
<p>第6分科会</p> <p>◆平和問題 ～企画運営団体～ ・岩手県学校生協 ・岩手県退職女性教職員の会 ・岩手県母と女性教職員の会 ・大学生協</p> <p>会場 7階 ホールステージ側</p>	<p>「平和な未来を子どもたちに」</p> <p>引きずられるようにある日突然戦争に巻き込まれる、子どもたちがいつの間にか戦争をすることになってしまう…この危機感が高まっています。戦争のない平和な未来を子どもたちに引き継ぐことができるのか、大きな不安が感じられます。今、私たちにできることは平和について学習し、運動の輪を大きく広げていくことです。戦後70年、戦争体験を聞きながら真実を確かめ、改めて「戦争とは何か」考えていきましょう。また若い世代の平和に対する思いに触れ、互いの思いを交流しましょう。そして、平和を守るために行動するエネルギーを高め合ひましよう。</p> <p>◇講演 「私の戦争体験」照井民太郎さん (北上市・元教員)</p> <p>◇報告 「平和行動へ参加して」大学生より</p> <p>◇意見交流</p>